

上野幌・青葉地域

南側部会 ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会はこれまで地域の4つの小学校を対象に検討してきました。平成28年9月からは北側部会（上野幌小学校・青葉小学校）と南側部会（上野幌西小学校・上野幌東小学校）に分かれて検討しています。このニュースについても部会ごとに発行しています。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

第6回部会について

12月12日（火曜日）午後6時から、上野幌東小学校で第6回部会を開催し、新設小学校の校名案に関する意見書案の検討や、今後の検討の進め方に関する協議を行いました。

報告事項

個別に寄せられた
意見

9月25日に開催した第5回部会以降、メールで2件のご意見等が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 私立の学校や民間企業ならわかるが、一般的な札幌市立の小学校はその地域を象徴する存在なので、「ノホロの丘」よりも「上野幌中央」や「上野幌南」のほうが公立の施設としてふさわしい名称だと思う。
(平成29年10月 メール)

(事務局回答)

新しい小学校の校名案は、公募して集まった案の中から、両校のPTAや地域の代表者、学校関係者、有識者により構成される検討委員会において、その理由等も含めて十分に協議し、決定したものであることをご理解ください。

- 厚別南地区センターを上野幌小学校から上野幌西小学校に移設すれば、上野幌小学校が青葉小学校と統合した際の教室が確保できるのではないかと。
- 周辺町内会・自治会の会館が不足しており、新たに建築する土地、資金のねん出は厳しいため、上野幌西小学校の教室の一部を町内会館として活用するのはどうか。
- 地域住民の避難場所としてだけでなく、体育館・教室の有効利用及びスポーツ少年団・体育振興会等の活動場所を確保するため、体育館を有効利用してほしい。
- 待機児童対策・子育て支援対策として、幼稚園・保育園・子育て支援施設を誘致するといいいのではないかと。

(平成29年11月 まちづくり政策局地域計画課へメール)

新設小学校の校名案に関する意見書（案）について（検討）

第5回部会において決定した、新しい学校名とその選定理由などを記載した意見書案について協議を行い、下記のとおりとりまとめました。

上野幌・青葉地域南側地区の新設小学校の校名案に関する意見書

◆校名案

札幌市立ノホ口の丘小学校

◆選定理由

- (1) 「ノホ口」は両校の子どもたちにとってなじみがあり、長く親しまれてきた共通の名称である。
- (2) 歴史のある名称の「ノホ口」を用いて、札幌市初の片仮名による校名にすることで、今までの「歴史」と「新しさ」の両方を表現することができる。
- (3) この地域が小高い場所に位置することから「丘」を校名に入れることで新設校の特徴を表すことができる。

◆両校の子どもたちにとって愛着があり、地域の歴史を感じることができる「ノホ口の丘小学校」を中心として、これまで以上に地域、保護者、学校のつながりが深まり、より一層地域の活性化が進むことを望みます。

とりまとめた意見書は、部会代表である吉岡委員から、札幌市教育委員会の長岡教育長へ提出されました。

～意見書の手交式～

◆日時：平成29年12月22日（金曜日）午後1時30分から

◆場所：教育委員会

吉岡代表委員から

たくさんの中案の中から、理由も含めてしっかり議論して、委員の総意で校名案を決定することができてよかったと思っています。

教育長から

片仮名であることや地域にもなじみがあることを含めて、特色が表現された学校名になったと思います。今後、閉校開校準備などが本格化したしますが、南側部会の委員の皆様には、引き続きご支援をお願いいたします。



意見書を手渡す吉岡部会代表（右）
受け取る長岡教育長（左）

スクールゾーン実行委員会について（報告）

12月5日に開催された、上野幌西小学校と上野幌東小学校合同のスクールゾーン実行委員会について、報告がありました。

委員からの報告

- ◆日時及び場所：平成29年12月5日（火曜日）午前10時から 上野幌東小学校
- ◆参加者：両校のスクールゾーン実行委員 約30名
- ◆主な議題：想定される新しい通学路について
厚別中央通には児童が横断できる信号が6か所あり、一つ一つの信号について横断する道路幅、横断にかかる時間、想定される信号待ちの児童数などを考慮しながら、安全性について意見交換をした。

主な意見

- ・現状では児童を見守る目が足りないので、横断する場所は絞った方がいい
- ・横断後、上野幌中学校横のT字路の信号機周辺が混みあうのではないか
- ・スクールゾーン実行委員会で意見交換をし、新設校に引き継ぐことが重要。新設校が開校し、実際に通学していく中で課題等が見つかれば、その都度修正していけばいいのではないか

今後の検討の進め方について（検討）

今後検討すべき項目について、どのような方法で検討を進めていくか、事務局からの提案内容の検討を行いました。

今後検討すべき項目

- 新設校の通学路について
- 校歌・校章について
- 交流事業について
- OPTA組織の統合について

- 跡活用について

検討方法（案）

学校を中心に検討する。

- ※基本的には新しい学校（長）を中心に検討する。
- ※地域、保護者とも連携をとる。

現在の部会とは別の枠組みで検討する。

【どのような人たちで検討していくべきか】
（例）

- ・町内会（単位町内会、連合町内会）
- ・学校（小学校、PTA）
- ・まちづくり会議
- ・関係団体（体育振興会、青少年育成委員会、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、老人クラブなど）

※ その他、課題の内容に応じて、札幌市役所の関係部署と個別に協議しながら検討を進める。

◆委員意見など

(今後の検討の進め方)

委員から主に以下のような意見がありました。

- 平成31年4月の開校まで時間がないので、校歌・校章や交流事業などの検討は、学校中心に行った方がいいと思う。
- どちらの学校でも、地域やPTAと連携し、継続的に行っている独自の行事などがあるので、それぞれの特色を融合し新しい学校に引き継がれることが望ましい。
- 上野幌西小学校の跡活用を検討するのであれば、校区の町内会長などにも参加していただくことが必要だと思う。
- 跡活用の検討は、地域の方を中心に参加していただき、幅広い意見交換をすることが重要ではないか。
- 跡活用の開始は、閉校のタイミングと合わせることを前提なのか。

【まちづくり政策局回答】

もみじ台地域の事例でもあったように、必ずしも跡活用の開始と、閉校のタイミングが合うとは限らないと思います。しかし、地域コミュニティ維持の観点から、継続して行ってきた活動の中断期間が短くなるよう、閉校に合わせて跡活用が開始されることを目指して検討を進めていきたいと考えています。

- 跡活用の検討もスピード感が重要だと思うので、検討の枠組みや参加する方に関して早急に整理するべきではないか。

確認事項

第6回の部会では下記のことを確認しました。

- 校歌・校章や交流事業などの学校に関することは、今後、学校を中心に検討する。
- 上野幌西小学校の跡活用については、現在の部会とは別の枠組みで検討する。

第7回の部会について

第7回部会は、2月頃の開催を予定しており、跡活用に関する検討の枠組みなどについて協議を行います。

■ ご意見・ご質問は、下記までお寄せください ■

■小規模校検討委員会に関すること<小規模校検討委員会事務局>■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル5階

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837 E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

■校舎の跡活用に関すること■

札幌市まちづくり政策局 都市計画部 地域計画課 (調整担当)

〒060-8611 札幌市中央区北1西2丁目 札幌市役所本庁舎5階

T E L 011-211-2545 / F A X 011-218-5113 E-mail toshikeikaku@city.sapporo.jp

※ 部会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>